

彫刻教室 イヌイエアンロ!

アイヌの木彫の地域差、文様、樹種の特徴などについて学びます。基本的な彫刻を練習し、小型のイタ（盆）の制作に挑戦します。



日時 6月26日(日) 13:00～15:00 ※各月第4日曜日予定

指導者 山道ヒビキ

対象 大人

定員 6名 ※最小催行人数3名

参加費 7,000円(全6回) ※別途入場料(白老町民は入場無料)

材料費、指導料等が含まれます。刃物をお持ちでない場合は、3種類8,000円程度の刃物代を別にご負担いただけます。

申込 要予約 ※6/21(火)締切

制作した作品は博物館内で、1か月程度展示させていただく予定です。

完成までの過程を、おひとりずつの制作状況に応じ、要領を丁寧に指導させていただきます。

アイヌのお話と自然観察

ヨコスト散歩

ヨコスト湿原にまつわるアイヌの伝承や地形利用、歴史、自然を、実際に浜辺や湿原を散策しながら紹介します。お昼には、浜辺でオハウ（アイヌの伝統的汁物）を味わいます。

日時 6月11日(土) 10:00～13:00 ※小雨決行、雨天中止

集合 北海道白老郡白老町ヨコスト湿原

対象 大人

定員 20名 ※最小催行人数4名

参加費 1,000円(オハウ、保険料等含む)

申込 要予約 ※6/6(月)締切

服装 長袖、長ズボン、帽子、長靴または汚れてもいい靴

持物 虫よけ、おにぎりなどの軽食、敷物

白老の地名散歩

登別と白老にまたがる海岸沿いに残る地名を歩き、アイヌの世界観に触れる大人の遠足。<5kmほど歩きます>ポンアヨロ河口でオハウ（アイヌの伝統的汁物）を味わいます。

日時 7月3日(日) 10:00～15:00 ※小雨決行、雨天中止

集合 いぶり中央漁業協同組合(登別漁港)駐車場

対象 大人 ※5km程度歩ける方

定員 15名 ※最少催行人数4名

参加費 2,000円(オハウ、保険料等含む)

申込 要予約 ※6/28(火)締切



ポロトの森ウォーク

ポロト自然休養林ビジターセンターから、観察用浮き橋コースを歩きます。

日時 2016年6月19日(日) 09:00～12:00 ※小雨決行

集合 ポロト自然休養林ビジターセンター前

対象 大人

定員 12名 ※最小催行人数2名

参加費 500円

申込 要予約 ※6/16(木)締切

服装 長袖、長ズボン、帽子、歩きやすい靴

持物 虫よけ、汗拭き、飲み物、敷物、あれば図鑑・双眼鏡

7月中旬以降のお知らせ ※詳細はお問い合わせください。

ポロトコタンの夜

アイヌの儀礼・歌や踊り・食文化をコンパクトに体験いただける夏季特別企画。職員による博物館ガイドもあります。

2016年8月5日(金)、6日(土)

シリカッ送り

かつてカジキ漁の出漁時と漁獲後に行われていた、豊漁を祈願し、感謝する重要な白老の儀式。

2016年8月17日(水) 午前

※午後からはシンヌラッパ(先祖供養)が行われます。

「白老アイヌの伝承記録」展(仮称)

かつての白老町に関する民具・映像・写真・文献をもとに白老アイヌの伝承記録をたどりま。

2016年7月13日(火)～8月21日(日)

<関連企画>白老町指定の伝承者をお招きして、刺しゅう教室や、エカシ・フッチのお話を聞くなどのワークショップを予定しています。

ペツカムイノミ(豊漁祈願)

サケの遡上期に、海や川の神々に豊漁を祈る儀式。

2016年9月上旬

絵の具 De マタンプシ!

7月下旬予定

menoko day!(メノコディ)

女性の一生に焦点を当て、アイヌ文化の食・仕事・踊りを学ぶ1日。女性限定です!

2016年7月30日(土)

「takuppe～湿地と谷地坊主～」展

2016年9月16日(金)～10月30日(日)

「風景と記憶の森へ」展(仮称)

2017年1月15日(日)～2月19日(日)



Facebook、Twitterでも情報をご覧いただけます。
コタンメールはホームページへも掲載しています。

URL: www.ainu-museum.or.jp

編集/発行: アイヌ民族博物館 学芸課

うた おどり

フッサ ヘロ

～ 鷓川の伝承～

魔払いの舞踊

鷓川には「フッサ ヘロ」という、魔払いの舞踊があります。この「フッサ」という言葉は、病人を治療するために「フッフッ」と息を強く吹きかけるまじない、あるいはその息の音のことを意味するもので、この舞踊も病気を払うものとして受け継がれています。

「フッサ ヘロ」は女性だけで踊る舞踊で、座る人6人、立つ人6人、合計12人で踊ります。この6という数字は、アイヌ文化の中ではしばしば「多い」という意味を表すことがありますが、鷓川のフチ（おばあちゃん）は「たぶん、特別な数字なんだべなあ」と言っています。



座っている人は、右手で地面を叩きながら「カンコワ ホテレケ」とリズムを取るように声を出し、これを繰り返していきます。そして立っている人は、まず「フッサ ヘロ」といいながら、病人を気遣う姿勢で、左右に揺れながら座っている人の肩を叩きます。その動作を数回繰り返した後、今度は地面をドンドンと踏み鳴らしながら座っている人の周りを回り、立つ場所を交替します。これらの動作を繰り返していく舞踊です。

コタンノミで「フッサ！ フッサ！」

この舞踊では使われていませんが、フッサを行う際にはタクサと呼ばれる、人や物についた魔を払うための清めの草を使うことがあります。アイヌ民族博物館ではコタンノミ（集落の祈り）を行う際、その会場となるチセ（家）のなかを男性二人が両手にタクサを持って「フッサ！ フッサ！」と言いながら、上座のほうから力強く掃く動作を行っていき、その場を清めます。



アイヌ民族博物館で使用しているタクサ

タクサには、アイヌ文化において特別な力があるといわるヨモギ類やササ類、トゲのあるタチイチゴ（クマイチゴ）などが使われます。

